

## 東北帝大の建築デザイナー・中島泉次郎

—医学系研究科事務部経理課移管文書より—

東北帝国大学の初期建造物の設計には、元文部技師で1912年（明治45）に東北帝大技師に転じ、建築掛長、営繕課課長を務めた中島泉次郎（1862～1943）が携わっていました。中島は帝大出の建築家ではなく叩き上げの技術者で、仙台最初の本格的洋風建築に習熟した建築家として、周辺の文部省直轄学校の設置にあたっての工事を担当していた人物でした。

中島が東北帝大で担当した建物には、今回の展示資料である医科大学（現医学部）以外にも、県立宮城病院（後に東北帝大附属病院）、向山の観象所、理科大学（現理学部）などがあります。ちなみに医科大学の建築デザインは、「青い芝生を囲んで整然と並んで居る建物の美しさに他の大学の人びとが感心する」（医化学教室教授・井上嘉次郎の言葉）ほどであったそうです。ただその使い勝手は、中に入る人の考えが加わらず、随分と不便であったとの評判も遺されています。

今回の新公開資料の中には、本館の部屋割り図や、薬物学、細菌学教室などの詳細な建築図面が含まれています。これらは、建築デザインのみならず、医科大学設立当時、こういった環境で医学の教育や研究が行われていたかを知ることができる好資料です。

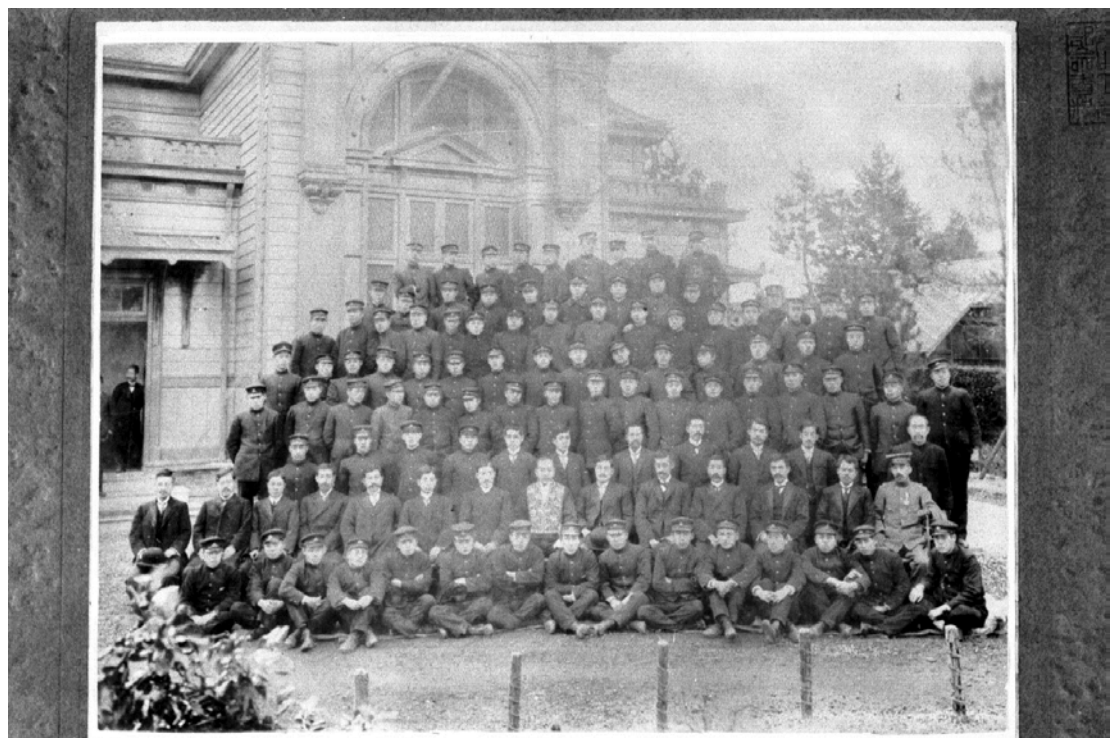


写真 仙台高等工業学校土木工学科卒業生の写真。1910年代。

この建物を設計し講師も務めた中島は、前2列目左2番目。